

町政懇談会 会議録

1. 開催日時

平成22年4月4日(日) 午後2時00分～午後4時00分

2. 対象団体

黒沢自治区

3. 代表者名

黒沢自治区長 渡部 啓 (参加者数:25名)

4. 開催会場

黒沢公民館

5. 町出席者

町長 伊藤 勝・町民税務課長 成田信幸・建設水道課長 酒井誠明
企画情報課長 杉原徳夫・同課広報広聴係長 鈴木洋祐

6. 事前協議事項

① 町民バスの冬期運行計画について

(区 長) 12月から翌3月末まで、新屋敷地内のカーブ(通称:ベナ坂)の上り下りが危険ということで町民バスが下落合停留所止まりとなっている。その先の今泉地内に住む児童生徒や高齢者が非常に不便な思いをしているので、降雪期でも今泉停留所を終点として運行できないでしょうか。

(町 長) 降雪状況に応じて、乗務員の判断で運行の可否を決定しても良いとし、そのように指示したことがあります。この場合の問題は運行の有無のお知らせの方法が課題となりました。

いずれにせよ消雪装置については、相当の経費がかかることを見込まれ実現は困難かと思われるので、町としては車両の小型化による解決方法が適当かと思えます。

ただし、国道400号がこのままで良いという訳ではなく、改良工事については検討してもらわなければならないと考えています。

(町民税務課長) 黒沢線については、通称ベナ坂と呼ばれる急勾配のカーブがあるため、冬期間の運行を見合わせております。道路改良面からの解決は、喜多方建設事務所との協議においても困難であるとの見解であります。

このことから、町では使用車両を小型化することにより通年運行は可能と考えておりますので、本年度の車両更新において小型車両の購入を検討し、今年の冬からは実施できるよう努力していきます。

② 国道400号の早期改良について

(区 長) 下谷字沼新田地内の道路状況は、車のすれ違いもできないほど危険です。交通事故も発生しており、早急な対応をお願いしたい。

(建設水道課長) 国道400号整備については、東中山橋が完成間近であり、これが完了しないと外の要望をすぐにとするのは難しいようです。町としてはトンネル工事の中止、進捗の遅れなどがあることから、喜多方建設事務所との協議の場となる地域づくり懇談会において沼新田地区への整備工事の移行を強く要望していきます。

なお、ベナ坂については、県とも現地確認を行っております。県では融雪剤の散布回数を増やす対策を行うので、町の対応策として使用車両の小型化を検討して欲しいとのこと。

③ 杉峠通行止め期間の短縮について

(区 長) 杉峠地内は降雪時から翌年4月頃まで4ヶ月以上通行止めとなっています。当地区と杉峠で結ばれた三島町とは昔より縁故関係も多く、近年では仕事での往来も多いことから、早期開通をお願いしたい。

(建設水道課長) 杉峠の早期開通については、町としては基本的に除雪により冬期間の通行止めは行わないようにしたいと考えてはおりますが、降雪量が多いことや勾配がきついことなどから難しいと考えます。本年については、3月16日に除雪し通行止め解除を行ったところであり、今後とも3月上旬に通行止めが解除されるよう県にも要望していきます。

7. 意見交換

○ 町民バス運行事業について

(意見) 町民バスですが、会津バス時代は1～2月はともかく、降雪状況を見ながらタイヤチェーンを使いながら今泉まで運行していました。町民バスになってから不便になったと思います。子供やお年寄りが冬場に下落合まで徒歩で移動するのは大変なことです、今年の冬から対応してもらえることに期待しています。

○ バナ坂について

(町長) 過去に地下水の利用による消雪対策を検討する話がありましたが、調査の結果地下水が出なかった経過があります。代わりに燃料を使ってボイラー消雪という話もありましたが、燃料を燃やす方法に疑問の声があがりました。このような経過から、県との協議において融雪剤の散布回数の見直しにより対応するとなったものです。

○ 山林の利活用について

(意見) 黒沢地区では50軒で1,300町歩もの山林を所有しておりますが、その利活用のためには作業道の開設が不可欠です。町森林組合において、所有者の境界確認や間伐事業、作業道の開設などに取り組んでいますが、一番の問題は搬出された木材の販売方法が弱いということです。価格はともかく、素材販売が活性化されるよう、町森林組合の機能強化を町の支援により推進していただきたい。

(町長) 町では、所有者の境界確認に要する機器類の購入など様々な形で町森林組合に支援を行っています。木材利用については、モデル地区を設定し検討するなど、関係機関と検討を進めていきたいと思ひます。

近年、森林整備面については、国や県から多くのメニューが示されております。しかし、その事業を町森林組合が受け入れきれない状況があるようです。現場で業務に従事できる作業班などが高齢化しており、林業後継者の育成にも努力して行かなくてはならないと考えます。

本年度より、経済担当部署を農林担当と商工担当に2分割しました。さらに、林政係を単独化しましたので、より充実した施策が推進できるものと考えます。

○ 木材の利用促進について

(意見) 当地区では建築用材としてのスギの植林に取り組んできましたが、情勢も変わり、建築用材としての利用に期待ができないことから、今後どのような利用の方法があるかを考えています。町としても膨大な森林資源の活用方針を検討すべきではないでしょうか。

(町長) 木材の利用法には様々な方法があると思ひます。問題は木材を燃料として使用可能な状態にした上で安定供給できるのかどうかだと思ひます。個人手配では難しいので、町や町森林組合が担うことになるのかと考えられます。

また、費用面や効率性の問題もあり、十分な比較検討が必要ではないでしょうか。

○ 国道400号の改良について

(意見) 沼新田地区の道路改良において、5年ほど前に拡幅工事を行った箇所にある電柱の移設と支障木の伐採を実施していただきたい。

(町長) 機会を見つけて話をします。

○ 医療体制の充実について

(意見) 町の中心地区である野沢地区に、病院(診療所)の建設をお願いしたい。個人医院がおやめになることから、野沢地区に医師がいなくなることは非常に不安である。高齢者が増える一方、安心して子供を産み育てられる環境を確保する意味でも積極的に検討願ひたい。県内には施設を公共で整備し、経営は医療法人に任せる公設民営方式という方法を取り入れた自治体もあるようです。

町内には西会津診療所もありますが、黒沢方面からでは町民バスを乗り継がないと行けないので、やはり野沢地区にあると便利です。

(町長) 野沢地区に施設があることが理想ではありますが、まずは現在の診療所において医師の確保が十分ではないことが課題であると思ひます。しかし、医師の確保は容易ではなく、自治医大への要請も継続して行っています。

私は、今の診療所はベッドのない病院のような状態にあると考えており、交通の便がどうかは別としても、施設管理、技術者の確保の面からこれ以上のプラスアルファは難しいと考えています。

経営面では医薬品代をいかに安価にできるかが課題となっています。ひとつの方法として診療所から薬局を切り離して薬剤師を抱えない院外薬局体制を取り入れることが考えられます。民間委託することにより薬品の在庫を抱えないので経営改善が図られると考えます。

なお、利用者の不便とならないよう配慮することはもちろんで、施設内に配備することを考えております。

○ 診療所の待ち時間について

(意 見) 診療所に通っていますが、診察の順番取りを頼まれて行っている方が見受けられ、モラルの無さを感じ不快な思いをしました。

また、町の診療所は他の医療機関よりも時間がかかりすぎるように感じています。改善していただきたい。

(町 長) そのような意見があることは十分承知しています。医師の数が少なく診察に時間を要するのか事務処理が遅いのか、何が原因なのかを究明し対応します。

○ 遊休施設の利用について

(意 見) 休校となった施設を利用し有効利用できないかを考えた場合、水の利用が課題となります。町の支援はお願いできるのでしょうか。

(町 長) 団体などを組織し利用していきたいとなれば、町としても支援は考えていくべきであると考えます。町としてどのように関われるか、相談に応じられる体制を築いていきたいと思います。